

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	61 都市の経済成長に資する都市基盤整備の推進（連続立体交差事業）（交通拠点連携集中支援）												
計画の期間	平成30年度 ~ 平成30年度（1年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	大阪市												
計画の目標	大阪圏の経済の活力強化並びに安全で快適な市民生活に資することができるよう、市内における連続立体交差事業の実施・安全で快適な道路空間の確保に向けた都市基盤施設の整備を推進する。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	7,759	A	7,759	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
1	・連続立体交差事業において、事業完了に向けた事業進捗率を、H30年度末に59%となるよう整備を推進する。 連続立体交差事業については、事業完了により効果発現することから、事業完了に向けた事業進捗率を評価指標として算出する。 $\text{事業進捗率} = (\text{年度別事業費}) / (\text{事業完了までの全体事業費}) \times 100(\%)$	H30当初		H30末
		54%	%	59%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	○	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-
大阪市強靱化地域計画に基づき実施される要素事業：A1								

A 基幹事業																					
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況		
												H30	H31	R02	R03	R04					
一体的に実施することにより期待される効果																					
備考																					
道路事業	A01-001	街路	一般	大阪市	直接	-		S街路	改築	阪急電鉄京都線・千里線 連続立体交差事業(淡路 駅付近)	連続立体交差(7.10km)	大阪市						7,759	1.28	-	
													小計						7,759		
												合計						7,759			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 大阪市において評価を実施	事後評価の実施時期 令和2年3月
	公表の方法 大阪市ホームページにて公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	連続立体交差事業事業の進捗を図ることで、安全で快適な道路空間の確保に向けた都市基盤施設の整備を推進できた
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
平成31年度より、本要素事業を新たな補助事業「道路交通安全対策事業 連続立体交差費補助」に移行し、事業を継続実施中である。	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	59%
	最終実績値	59%
		工事等を計画的に実施した結果、目標値を達成できた。

(様式第3)

社会資本総合整備計画 参考図面

計画の名称	61 都市の経済成長に資する都市基盤整備の推進（連続立体交差事業）（交通拠点連携集中支援）		
計画の期間	平成30年度～平成34年度（5年間）	交付団体	大阪市

[凡例]
— : 交付対象事業箇所

61-A1

